

3-18. グランドワーク大山蒜山（鳥取県西伯郡大山町）

(1) 地域の概要

【人口】

約 25 万人（鳥取県西部および岡山県北部の一部）、人口は米子市（人口は約 15 万人）とその周辺地域に集中し、一部、中国山地の里山地帯にも集落が散在している。

【地勢】

100 万年以上前から噴火の歴史をもつ大山火山群とその裾野からなる地域であり、北に日本海と弓浜半島、島根半島の海の地形、南に中国山地の山々が連なる。

【面積】

約 1,500km²

【気候、自然】

西日本地域であり、気候は比較的温暖であるが、日本海に面した地域であり、冬の季節風により、西日本にあって雪の多い地域である。

大山を中心に自然はよく保全されているが、中国山地はかつての「たたら製鉄」により、古くから人の手が入った里山地帯となっており、静かな山里の自然が残されている。

一方、国立公園に指定された大山には西日本最大級のブナ林が広がり、原生自然的な環境も残されているほか、その山麓には中国山地と同じく、静かな山里の風景が広がっている。

【歴史】

古くから農耕や「たたら製鉄」で栄えた地域である。また、中国大陸に近い西日本地域であり、比較的日本史などに記された歴史は古く、古墳などの歴史的遺産も多い。出雲神話の舞台の一部である。

【観光】

観光資源に恵まれているが、交通の便や知名度などにより、大山隠岐国立公園を中心に年間約 400 万人が訪れている。

【地域資源の概要】

日本百名山である秀峰大山とその自然と景観、西日本最大級のブナ林、中国山地に広がる里山の自然と風景、美保湾・中海・弓浜半島などの海岸の地形と風景、日本海の高産物、皆生温泉などの温泉地、複数の自然歴史遺産など。

(2) アドバイザー派遣申請の背景

1) 派遣申請の背景

大山を中心とした鳥取県西部地域とその隣接地域では、数年前より豊かな自然環境を活かしたエコツーリズム事業を推進しているが、未だ魅力的なエコツアー企画や商品が完成しておらず、事業が経営軌道に乗っていない状況である。

大山は、国立公園に指定されるなど優れた自然と景観が自慢の名峰で、その山麓や周辺域には、大山集落や皆生温泉の宿泊基地があるが、大山集落はスキー人気の低迷、皆生温泉は団体旅行を対象とした施設の大型化による弊害によって、苦しい経営に陥っているところも多く、その現状を打開する手段としてエコツーリズムやスポーツ観光、健康ツーリズムに望みをつないでいる。

その一方、大山の南側から中国山地にかけて広がる農山村地域では、過疎高齢化が進み、残された自然や歴史遺産、生活文化を資源に、交流人口の増加を目指して、日野郡いきいきツーリズムネットワークなどを組織し、農村体験型観光を進めようと努力している。

このような背景から、大山を含む鳥取県西部では2013年秋にエコツーリズム国際大会が開催され、エコツーリズム事業に係わる人材の育成とともに、魅力的なエコツアーの商品企画の開発を進めている。

ここ大山地域では、主峰大山をはじめ、烏ヶ山、蒜山三座などの山々の眺望・景観、火山地形、ブナ林・ミズナラ林、湿原・草原、里山雑木林などの植生、オオサンショウウオなどの天然記念物、自然生態系、牧場や山里などの里山・農村景観、大山寺・大神山神社、大山道、宿坊など自然文化遺産、神話・伝説など大自然を背景とした物語りが存在しており、これらを資源としたエコツアー企画や自然学校(自然体験型環境教育)事業を進めている。

そのような活動の中で着目したのが、名峰としての大山の自然や景観の魅力であり、昨年度は、大山と同じく美しい巨大火山峰を地域のシンボルやランドマーク、ふるさとの山(富士)として有する名峰地域で景観保全やエコツーリズム、自然学校事業に取り組む組織・団体を大山地域に招いて、「名峰景観ツーリズム・シンポジウム大山」を開催し、活動連携を進めるとともに、名峰地域から本格的にエコツーリズム事業や教育旅行事業に取り組んでいる NPO 法人浅間山麓国際自然学校の橋詰元良理事長、NPO 法人富士山エコネットの三木廣理事長を講師(エコツーリズム推進アドバイザー)にエコツーリズムセミナーを開催し、ロングトレイル事業やエコツアー型教育旅行事業に取り組むようになっている。

(3) アドバイザー派遣の概要

日 時	平成 27 年 1 月 28 日 (水) ～29 日 (木)
場 所	鳥取県米子市・伯耆町、弓浜半島、皆生温泉、伯耆町日光地区
アドバイザー	鹿児島大学 名誉教授 大木 公彦 氏
参加者	グランドワーク大山蒜山、大山ツアーデスク等エコツーリズム推進団体関係者、地元自治体（米子市、江府市、伯耆町、大山町、真庭市等）関係者、NPO 等関係者 合計 38 名
スケジュール・方法	<p>【1 日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報共有、地域課題の把握 ・『大山圏域 森と里と海を結ぶ自然活動交流会』 基調講演「山と海を結びつけた名峰エコツーリズム」（大木先生） ・交流会：意見、助言指導 ・エコツーリズムに取り組む団体等の集まる会合にて、助言指導 <p>【2 日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大山山麓（伯耆町日光地区）にて情報収集 ・『大山山麓・名峰景観フォーラム』 講演「日本の名峰（火山）の景観的な魅力」（大木先生） ・観光資源としての火山の魅力等、大山地域で取り組む地学、地理を活かした名峰ツーリズムについて助言指導

(4) アドバイスの内容

1) 「大山圏域 森と里と海を結ぶ自然体験活動交流会」での講演内容

霊峰と呼ばれる大山は山岳宗教の聖地であり、山腹には西日本最大級の面積のブナ林が広がり、大山寺、大神山神社を中心に多くの自然文化遺産が残るほか、大山寺地区はスキーの基地として多くの宿泊施設が存在している。

また、大山の山麓には古くから人の営みにより守られた里山地帯が広がり静かな山里の環境が残り、山の幸にも恵まれている。

大山の裾野は日本海の海底まで続き、「海に近い名峰」として知られており、大山が裾野を洗う美保湾は、弓ヶ浜半島と島根半島(美保の関半島)に囲まれた漁場で、境港の他、御厨や日吉津の漁港などの小規模な漁港もみられ、漁火猟などによる海の幸に恵まれた海域であるほか、宿泊保養基地である皆生温泉が日野川に近い弓ヶ浜の海岸にみられる。

このように、大山は豊かな森と海の自然に育まれた森の幸、海の幸にも恵まれた山で、火山噴火によって形成されたその山容は美しく伯耆富士と呼ばれる名峰であり、海から、里から、街からも日々、その秀麗な姿を望むことができる「海に近い

名峰」ではあるが、これまで、森と里と海を結びつけたエコツアープログラムは少なく、森と里と海の環境をあわせもつ大山圏域の絶好のロケーションが観光やツーリズムにおいて十分に活かされてきていない。

「大山圏域 森と里と海を結ぶ自然体験活動交流会」では、最初にエコツアーリズムの出発点として、大山という名峰がこの地に存在する歴史・生い立ちを知ることの大事さについて話しを聞くことができた。

2) 「大山山麓・名峰景観フォーラム」での講演内容

火山国の日本には、富士山をはじめ、羊蹄山、岩手山、鳥海山、男体山、御岳山、浅間山、岩木山、開聞岳などの美しい火山峰が多く見られ、これらの名峰は信仰の山、「ふるさとの山」として、古来より多くの人たちに崇められており、近くには、秘湯・名湯や滝、溪谷、清流、湖沼、牧場などの景観資源も数多く見られ、その山麓には山に関係する自然歴史遺産や、自然と共生する生活文化も多く残されている。そして何よりも麓の農村から眺める雄大で美しい名峰の景観は、日本を代表する心の風景である。

大山は、中国地方の最高峰(海拔 1,729m)にして、烏ヶ山、皆ヶ山、蒜山三座と連なる火山群を形成する主峰である。弥山とも呼ばれる大山主峰は、成層火山の上部に巨大な溶岩ドームが噴出した火山峰でもある。

1月29日の景観フォーラムでは、大山の美しい山容や麓の風景に着目し、文化的景観や火山地形、植生に詳しい学識経験者などを招いて、全国での景観保全の活動事例を学ぶとともに、大山の景観や眺望の保全と活用について意見交流をはかるものであり、大木公彦さんには、エコツアーリズム推進アドバイザーと同時に火山学者として、火山としての桜島の魅力や火山の地学や景観を活かしたジオパークの活動について紹介を受け、大山蒜山地域での活動について、その課題なども意見をいただき、木曾御岳や桜島での火山災害を事例に助言指導を受けた。

大木先生、中越先生(広島大学大学院教授)、橋詰氏(NPO 法人浅間山麓国際自然学校理事長)、牧野氏(NPO 法人しりべつリバーネット理事長)と一緒に、伯耆町日光地区を案内し、「グランドワーク大山蒜山」が進めようとしている「大山山麓こども自然学校事業」の現地紹介を行った。日本の原風景が残されている日光地区の集落のたたずまいや、自然体験学習の拠点に予定されている廃校となった木造校舎や茅葺き民家、地区の公民館などを案内し、大山山麓の山里を子ども達の自然体験学習活動の場として活用することに賛同を受け、大木先生からは「実現に向けて頑張りたい」との応援の言葉も得ることができた。

「大山山麓・名峰景観フォーラム」では、大木先生、中越先生、橋詰氏、牧野氏を交え、「日本の名峰(火山)の景観的な魅力」と題して講演し、意見交換を行うことができた。

(5) アドバイザー派遣実施の効果

1) 参加者や関係者に与えた効果

①エコツーリズム、又は、地域資源について理解が得られた

過去、100 万年間の火山活動の産物として美しい山体と広大な裾野が出現したこと、ミネラルを豊富に含んだ水と、それによって育まれた森や田畑が美しい景観を作り出していること、その大地の恵みを人が受けていること、さらには養分を含む地下水が裾野を形作る火山性の堆積物中を流れ、海に注ぐことによって魚介類が多様で豊かであることを述べ、自然のすべてがつながっており、エコツーリズムを考える上で、自然を多角的に捉えることが重要。

②今まで課題としていたことがより明確になった

大山の山体、裾野、海を活かすエコツーリズムを考える上で、その地域全体をミュージアムと捉え、地域にある自然・歴史・文化・産業に関する資源を調べることが最初のステップとして重要である。

③今までの課題に対して取組方が分かった

大山から日本海（美保湾）に至る自然と人のミュージアムを活用したエコツーリズムの取組が、観光だけでなく教育（防災）や研究に活かされること、そのためには多くの団体が連携し、後継者（若者）を育成することが大事。

④今までとは別の課題が明らかになった

大山は完新世（約 1 万 2 千年前以降）に活動記録がないことから活火山に含められていないが、過去 100 万年間にわたって大きな噴火を繰り返したおかげで美しい山に成長し、謎の多い魅力的な山であり、ジオパークのフィールドとしても魅力的である。

⑤その他

大山の景観はどの角度から見ても素晴らしいが、海岸地域さらには沖合から船で眺めることによってその魅力が倍増し、山岳・山麓・海と人とのかかわりを多くの人に伝えることが可能になり、さらに環境教育や防災教育プログラムに寄与することができる。

2) 今後期待される効果

大山は、1,729 メートルの海拔高度を持つ中国地方における最高峰であり、過去 100 万年もの長い期間にわたる火山活動を経て成長した美しい火山で、その裾野は広く、日本海に達している。火山砕屑物からなる山麓は豊かな地下水系によって森や田畑が広がり、その水が海の豊かな生態系を育てている。大山は伯耆富士と呼ばれるように独立した山体で、山岳地帯から山麓、海まで近く、一望することができることから、山と海のつながりを学ぶことのできる日本でも数少ない場所のひとつである。この素晴らしい地域をエコツーリズムを活かすために、この地域の自然・

歴史・文化・産業に関する情報をさらに収集し、それらを結びつけてストーリーを紡ぎだす。

3) 今後の取組

日本海に至る大山の山岳とその裾野をエコミュージアムとして捉え、エコツーリズムに活用する取組に着手する。そのためのネットワークづくりを自然学校の関係を活かして進める。

(6) 今後の取組推進にあたり参考となった事項、その他感想

1) 参考となった事項

鹿児島県の「NPO まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会が行った、身近だけど隠れている資源の発掘事業「世間遺産」

鹿児島商工会議所の「鹿児島観光・文化検定公式テキストブック かごしま検定」

2) その他感想

マグマが上昇して火山体を作るには、それなりの理由があることを地球規模で理解することが重要で、そのことが名峰の存在を理解すること、さらには火山の噴火予測や防災につながる。・・・エコツーリズムの情報を活かすことで地域防災にもつながる。

【記録写真】



大木先生講演



フォーラムの様子



フォーラム参加者

(7) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

鹿児島大学 名誉教授 大木 公彦 氏

1) 地域における取組の現状と課題

エコツーリズムの観点から、この名峰の景観と自然を保全するための様々な取組が、「グランドワーク大山蒜山」や「大山道ロングトレイル協議会」などを中心に行われています。大山道ロングトレイルなどのツアープログラムは魅力的です。しかし、観光案内書・パンフレットなどからもわかるように登山客や観光客の多い大山の山岳地帯が注目されがちで、かつて火山活動を繰り返してきた大山の成り立ち、火山活動に伴う山麓堆積物と人とのかかわり、日本海へ達する山麓堆積物が係る沿岸海域の生態系と人とのかかわりを結びつけたエコツアープログラムが少なく、大山とその山麓から海へ至る素晴らしい自然・生活環境が観光やツーリズムに十分に活かされていないように感じられます。そのためには地域の貴重な資源の掘り起こしが重要で、地域住民自らが能動的に地域の資源を掘り起こすことのできるシステムの構築が必要だと感じています。

2) 特に魅力を感じた地域資源等

大山は、縄文時代以降に噴火の記録がないため、その美しい山体が過去 100 万年という長い時間をかけ、火山活動によってできあがったことを、地元でも知らない人がいると聞きました。100 万年という長い時間をかけて成長した山であるからこそ、山自体の美しさ、その広大な裾野の美しさは日本の火山の中でも卓越していると思います。さらにその裾野が日本海にまで達し、ミネラルを多く含む地下水が、山麓の農業だけでなく沿岸海域の漁業を豊かにしていることも魅力です。大山を海までつなぐことで、大地の営みを学ぶことのできる模範的なエコツーリズムのプログラムを構築することのできる、魅力的な地域資源を持つエリアであると感じました。

3) アドバイス（講義等）の概要

1月28日の午後に、米子市にある鳥取県西部総合事務所で開催された「大山圏域 森と里と海を結ぶ自然体験活動交流会」では、「山と海を結びつけた名峰エコツーリズム」と題して講演し、意見交換をさせていただきました。最初にエコツーリズムの出発点として、大山という名峰がこの地に存在する歴史・生い立ちを知ることの大事さについて述べさせていただきました。過去、100 万年間の火山活動の産物として美しい山体と広大な裾野が出現したこと、ミネラルを豊富に含んだ水と、それによって育まれた森や田畑が美しい景観を作り出していること、その大地の恵みを人がいただいていること、さらには養分を含む地下水が裾野を形作る火山性の堆積物中を流れ、海に注ぐことによって魚介類が多様で豊かであることを述べ、自

然のすべてがつながっており、エコツーリズムを考える上で、自然を多角的に捉えることの重要性をお話しさせていただきました。後半は、大山の山体、裾野、海を活かすエコツーリズムを考える上で、その地域全体をミュージアムと捉え、地域にある自然・歴史・文化・産業に関する資源を調べるのが最初のステップとして重要であることを、鹿児島大学総合研究博物館が取り組んできた「フィールド・ミュージアムの構築」(<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/>)を例としてお話しさせていただきました。鹿児島をまるごと博物館として捉え、住民が主体的に行動して地域資源の発掘を行い、地方自治体・公立学校・NPO・企業と連携・支援を受けながら、地域資源の意味付けを研究者に行ってもらうまでの流れを、多くの事例を挙げて説明しました。最後に、大山から日本海（美保湾）に至る自然と人のミュージアムを活用したエコツーリズムの取組が、観光だけでなく教育（防災）や研究に活かされること、そのためには多くの団体が連携し、後継者（若者）を育成することの大事さをお話しさせていただきました。

1月29日の午前中、「グランドワーク大山麓山」の徳永氏が進めようとしている「大山山麓こども自然学校事業」の現地視察を行いました。日本の原風景が残されている日光地区の集落のたたずまいに感動し、自然体験学習の拠点に予定されている廃校となった木造校舎や茅葺き民家、地区の公民館などを見学して、大山山麓の山里を子ども達の自然体験学習活動の場として活用することに賛同し、実現に向けて頑張っていたきたいとお伝えしました。

午後に伯耆町溝口支所で開催された「大山山麓・名峰景観フォーラム」では、「日本の名峰（火山）の景観的な魅力」と題して講演し、意見交換をさせていただきました。日本の場合、名峰の多くが火山で、大山は完新世（約1万2千年前以降）に活動記録がないことから活火山に含められていませんが、過去100万年間にわたって大きな噴火を繰り返したおかげで美しい山に成長し、謎の多い魅力的な山になったことをお伝えしました。その上で、マグマが上昇して火山体を作るには、それなりの理由があることを地球規模で理解することが重要で、そのことが名峰の存在を理解すること、さらには火山の噴火予測や防災につながることを説明いたしました。もちろん名峰には火山以外の地殻変動で隆起してできる山もあり、それぞれの名峰の成り立ちや他の名峰にない魅力を知ることが名峰をエコツーリズムに活かすことになることも説明させていただきました。このことに関連して、桜島・錦江湾ジオパークを例に、名峰をエコ（ジオ）ツーリズムに活かす取組として、桜島を中心に、様々な角度（分野）から桜島と錦江湾を結びつけ、観光客の知的好奇心にこたえるための工夫をしたことを紹介しました。その中でフェリーや観光船、漁船を使って海から桜島や始良カルデラを探索するクルージングが好評であったことを紹介しました。大山の景観はどの角度から見ても素晴らしいのですが、海岸地域さらには沖合から船で眺めることによってその魅力が倍増し、山岳・山麓・海と人とのかかわ

りを多くの人に伝えることが可能になり、さらに環境教育や防災教育プログラムに寄与することができると思います。最後に、エコツーリズムの根底に、人は大地に活かされているという考え方が必要で、まずは地域に住む人々が自らの地域を知って、愛し、すべての人がガイドとなって、地域の素晴らしさを観光客に熱く語ることが理想だと申し上げました。もちろん簡単なことではないでしょうが、鹿児島商工会議所の「鹿児島観光・文化検定公式テキストブック かがしま検定」を例に挙げて、主役の市民を中心に自治体・企業・教育界が連携して臨み、スピードは遅いかもかもしれませんが、理想に一歩でも近づくことが大事であること、加えて地域の未来を担う若者の育成がもっとも重要であることを述べさせていただきました。

4) エコツーリズム推進全体構想への取組状況・意向について

「グランドワーク大山蒜山」の徳永氏を代表として、これまでに様々なエコツーリズムの取組を行っていますが、現時点で全体構想を組織するまでには至っていないようです。徳永氏は、全体構想認定に向けて前向きに取組たい意向のようですが、そのためには、大山、その山麓および沿岸地域を含めたエコツーリズムのネットワークを発展させ、認定に向けて準備を進める必要があると思います。

5) 地域に対する印象、今後地域に期待すること（メッセージ）

大山は、1,729メートルの海拔高度を持つ中国地方における最高峰です。過去100万年もの長い期間にわたる火山活動を経て成長した美しい火山で、その裾野は広く、日本海に達しています。火山砕屑物からなる山麓は豊かな地下水系によって森や田畑が広がり、その水が海の豊かな生態系を育んでいます。大山は伯耆富士と呼ばれるように独立した山体で、山岳地帯から山麓、海まで近く、一望することができます。山と海のつながりを学ぶことのできる日本でも数少ない場所のひとつだと思います。この素晴らしい地域をエコツーリズムに活かすために、この地域の自然・歴史・文化・産業に関する情報をさらに収集し、それらを結びつけてストーリーを紡ぎだすことを心より望んでおります。

講演では十分にお話しできませんでしたが、日本海に至る大山の山岳とその裾野をエコミュージアムとして捉え、エコツーリズムに活用する取組について、鹿児島の「NPO まちづくり地域フォーラム・かがしま探検の会：<http://www.tankennokai.com/>」が行った、身近だけど隠れている資源の発掘事業「世間遺産」はとてもユニークで参考になると思います。また、近くの島根大学や広島大学にある大学ミュージアムとの連携を是非お考え下さい。